

海田南小学校 授業紹介 コーナー

(ここでは、海田南小学校の様々な先生達の授業の様子を随時紹介しています。)

5月 24日	第1学年3組	算数科	授業者(林 真希 教諭)
NO.4	参観者(校長・主幹・西村・今井・津田)		記入者 (校長 重森)

【1】 授業の概要

「前から4人」と「前から4人目」のちがいの復習から入った授業でした。「『目』が付くときは『ひとり』をさがすだね」という既習事項を確認し、今日は、たてにならんだものを『上から何番目』『下から何番目』と数えること、横にならんだものを『左右』の概念を使って数えるものなど、いろいろな数え方を子供たちの気づきをもとに、実際に子供たちが口で言いながら分かって覚えていく流れでした。子供たちの大好きな『ジバニャン』からの挑戦状に回答する工夫や、わざと『基点』となる言葉を抜いた問題を出すことで子供たちの考えを深める工夫がされ、楽しく主体的に学ぶ子供たちの姿のあふれる授業でした。

【2】 授業の素晴らしい点と学び

①子供が楽しめるユーモアのある教材

『ジバニャンからの挑戦状』が来ていて、並んだチューリップのどこかに手紙が隠されているのでみんなで探そう、という教材でした。子供たちの大好きなキャラクターということ、そして挑戦されたら受けて立つというワクワク感。『右から3番目』を見つけるとそこにあった手紙には『ここじゃなくて、左から2番目』という風に次々と指示が出されます。この繰り返しに子供たち笑いながら夢中に問題に取り組みます。必要感とワクワク感を持ちながら知らないうちに、解き方のトレーニングをしているのです。最後の手紙には、『きらきら卵』が入っていました。これは今後の学級づくりにつながる仕掛けでした。

②ペアトークを意図的に活用し全員参加を意識した授業

林先生は、どのクラスを受け持っても効果的に『ペアトーク』を活用し、全員参加の授業を仕組まれています。1年生の5月ですが、子供たちは『ペアトーク』の手法を身に付けながら学習に全力で向かっていました。林先生は「ペアで話したら、わかったという経験を積ませたいのです」と言われます。「ペアトーク」の様子を見てみると、決して黙っていないで何らかの言葉を互いに交わしています。林先生は「隣の人と話したい人はいますか？」とペアトークを子供たちからの要求の中で指導しています。学びの方法を教え、それを主体的に活用できるように育てておられました。

③子供が「あれ？」と思う場面から算数の大切さを教える授業

「右から3番目」や「左から2番目」と指示を出してきたジバニャンが、突然「5番目」という指示を出します。「たぶん、これだと思います。」と右からを回答する子、「いや、これだと思います。」と左からを回答する子。林先生が「どうして違う答えがでてしまうのでしょうか？」と尋ねると、「うーん??？」ここでペアトーク。そして、その後、でた答えが「それは、右、左がついてなくて、どっちからかわからないからです。」しっかりと、子供自身の言葉で説明できる姿がありました。

